

令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：釧路市地区
- 2 事例報告学校名：釧路市立阿寒湖義務教育学校
- 3 報告者職・氏名：校長 村瀬 清史
- 4 キーワード：豊かな自然環境とアイヌ文化を生かした「阿寒湖学」の取組

1 はじめに

本校は、釧路市中心部より約70km北西に位置する阿寒湖温泉地区に位置している。阿寒湖温泉地区の子どもたちの学びの拠点として長い歴史と伝統を築いてきた大正12年開校の阿寒湖小学校と、昭和25年開校の阿寒湖中学校とが統合され、令和3年4月、釧路市では初となる義務教育学校「阿寒湖義務教育学校」として新たな歴史の第一歩を踏み出した。



2 実践の概要

(1) 特色ある教育活動「阿寒湖学」



阿寒湖小学校と阿寒湖中学校は、義務教育学校として開校する以前から、阿寒湖という他地域から30km以上離れた限られたコミュニティの中で、教職員が連携しながらそれぞれの学校で教育活動を展開してきた。さらに、コミュニティ・スクールを核とし、地域の関係機関や多様な支援を受けながら、豊かな教育資源を活用した体験的な学習にも力を入れてきた。

こうした取組を発展させ、「自然環境」と「アイヌ文化」という二つの柱を据え、教科横断的かつ系統的に学べるよう再編したものが総合的な学習の時間「阿寒湖学」である。3年生以上を対象に、

意図的・計画的な学びとして実践している。

「阿寒湖学」では、天然記念物マリモや阿寒湖、森林といった地域の自然環境を守る人々、そして、アイヌ文化の保護・継承に携わる人々の思いや活動に直接触れながら、自分たちにできることを考え、実践する力を育てている。これにより、たとえ将来子どもたちが阿寒湖を離れることがあっても、自らの住む地域を大切に思い、課題を見出し、より良い人間関係を築きながらたくましく課題解決に取り組む力を培うことにつながると考えている。

【阿寒湖学のコンテンツ】 ※表中の数字は学年を示す。

	1stステージ	2ndステージ	3rdステージ
探究課題A (自然環境)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿寒湖畔における豊かな自然環境の享受</li> <li>・環境と産業についての探究</li> <li>3 「阿寒湖の自然を生かした産業」</li> <li>4 「阿寒湖畔の歴史」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿寒湖畔における環境問題の探究</li> <li>5 「阿寒湖畔の環境破壊」</li> <li>6 「野生動物との共存」</li> <li>7 「火山との共存(防災)」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿寒湖畔の未来の探究</li> <li>8 「阿寒湖畔以外の観光地」</li> <li>9 「阿寒湖畔の活性化」</li> </ul>
	ザリガニ漁・ヒメマス放流・マリモ観察・植樹体験	ワカサギ採卵・水草プロジェクト・食害防止ネット巻き体験・白湯山登山・植樹体験	マリモ観察

探究課題B (アイヌ文化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌ文化(古式舞踊)の体験と阿寒湖畔における先人の働きの探究</li> <li>3 「アイヌ文化って何だろう?」</li> <li>4 「阿寒湖畔でのアイヌの人たちの歴史」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌ文化継承への意識と阿寒湖畔以外のアイヌ文化の探究</li> <li>5 「アイヌ文化と観光」</li> <li>6 「他の地域のアイヌ文化」</li> <li>7 「古式舞踊をムックリで支えよう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌ文化の継承や発信の在り方の探究</li> <li>8 「アイヌ文化の芸術性」</li> <li>9 「アイヌ文化の継承と発信」</li> </ul>
	アイヌ古式舞踊	アイヌ古式舞踊・ムックリ	木彫

※表中の数字は学年

(2) 植樹体験活動

阿寒湖小学校では、阿寒湖畔地区の自然保護や森林の教育的活用に取り組む一般財団法人前田一步園財団が主催する「植樹祭」に合わせ、全学年で普段は立ち入ることのできない森林に入り、財団職員の指導のもとで植樹を行ってきた。数年後にはその成長を確かめ、樹木の再生に関する講話を聞き、保全のための枝打ちなどの体験も重ねるなど、森林の大切さを学ぶ貴重な機会として実施してきた。



義務教育学校の開校を機に、こうした活動を「阿寒湖学」の一環として再編し、対象を2ndステージの7年生まで広げ、「植樹遠足」として実施することとした。しかし、改めて取り組んでみると、「貴重な体験ではあるが、本当に毎年全学年で実施する必要があるのか」「植樹した木の成長を実感できるよう、学年ごとに間隔を空けた方がよいのではないか」といった声があがった。そこで2年目以降は財団職員と協議し、理解を得たうえで、実施学年を1・4・5・7年生に絞ることとした。

現在は、1年生が植樹体験を行い、4年生は森と水の関係や自然界における樹木の再生についての講話を受け、5年生は保全活動の体験を実施している。そして7年生は1年生の世話をしながら植えた木の成長を確認する活動を行うなど、学年ごとにねらいを明確にしたプログラムとして精選・整理し、実践している。

(3) アイヌ文化活動発表会

本校がある阿寒湖地区には、道内最大級の「阿寒湖アイヌコタン」があり、約120人のアイヌの方々が伝統文化を受け継ぎながら生活を営んでいる。本校では、開校時よりアイヌ民族文化保存会の協力を得て、全学年でアイヌ文化活動発表会を阿寒アイヌシアター「イコロ」で実施している。



発表会では、3～6年生が「アイヌ古式舞踊」を、7年生が伝統楽器である「ムックリ」や「トソコリ」の演奏を披露し、地域の方々に向けて学びの成果を発表している。舞台での発表に向けて、子どもたちは保存会の方々から直接指導を受け、踊りや演奏の技術だけでなく、そこに込められた祈りや願い、文化の背景についても学んでいる。

3 おわりに

今年度本校は開校5年目を迎える。開校時の教職員はほとんどいないため、保護者や地域がどのような思いや願いのもと開校に至り教育活動が行われているのかが継承されず、確認と共有が課題である。特色ある教育活動としての「阿寒湖学」の実践を通して、教職員だけではなく保護者・地域の思いや願いを共有・再認識し、「阿寒湖の学校」の教育活動の充実を図っていきたい。